

式辞

暖かさと寒さが交互に行き交いながら、校内の多くの木々にも、春の訪れが感じられてまいりました。今日の佳き日に、第三十八回卒業証書授与式を挙行できますことは、卒業生はもとより、私達教職員にとりまして、この上ない喜びでございます。

只今、卒業証書を授与いたしました三六一名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。卒業生の皆さんは、本日、高等学校の全課程を無事修了いたしました。

南校高校での三年間の生活は皆さんにとってどのようなものだったでしょうか。楽しい思い出や充実した時間も多かったと思いますが、必ずしも自分の思い描いていた生活ばかりではなかったかもしれません。辛いことや苦しいこともたぶんあったと思います。しかし皆さんはそれらを自らの努力と忍耐で乗り越えて来ました。そのことに自信と誇りを持って、それぞれが選んだ道を力強く進んでいただきたいと思います。

本校は、目指す学校像として、「主体的に学ぶとともに、豊かな心と国際感覚を育む」ことを挙げ、皆さんにこの社会をリードする人材になつていただくことを目標としてきました。この三年間で皆さんにその土台が備わつたことを願っています。

今年度の卒業式は前代未聞、まさに記憶にも記録にも残る卒業式となりました。新型コロナウイルスの影響による全国一斉の休校要請は皆さんも驚かれたことと思います。私達教職員も正直、戸惑いを隠せないでおりますが、この学校に通うことができなくなつたという状況に、それぞれがいかに対応するか？ということが非常に大切になってきます。この「問い」におそらく「正解」はありません。この正解のない問いに対して、皆さん一人一人が自分の頭で考え、どう行動していくか、皆さんの人間力が試されています。卒業式の後も、この見えない敵の感染拡大を防ぐために、分別のある行動をお願いしたいと思います。

さて、卒業に際して、私から皆さんに二つの事をお話したいと思います。

一つ目は、失敗や挫折を恐れるな、ということ。皆さんがこれから生きる社会は、今まさに大きな変動期を迎えています。スマートフォン急速な普及は十年前の予測をはるかに上回っています。以前もお話ししましたが、十年後には人工知能がもつと突進し、単純な作業のほとんどをロボットが取って代わる時代となるでしょう。その結果、約六五％の人が今はない職業に就職するだろうと言われています。人間が就く職業の種類も大きく変わり、今目標としている仕事が無くなり、描いている将来像が大きく崩れるかもしれません。つまり大きな失敗、大きな挫折を経験することを予測しておかなければならないということです。そうしたことに備え、「失敗は宝である」という意識を身に付けておくことが必要です。

小さな挑戦のチャンスを増やし、失敗、挫折を繰り返すこと、その中で失敗は恥ずかしくないこと、あきらめないことがやがて成功に繋がることを学び、失敗への態勢を整えておくことが何より大切になります。

保護者の皆さん、子供達はこの先必ず失敗します。壁にぶち当たって挫折することもあるでしょう。そんな時、どうか落胆したり責めたりせず、励まし、温かく見守っていたいただきたいと思えます。成功はその先に必ずあります。

二つ目は大信を守る、ということですが。「大信を守らんと欲せば、小信を守るに違(いとま)なし」。これは幕末・明治初期の陽明学者、山田方谷の言葉です。本当の信頼、大信を守るためには、うわべだけの信用、小信を守ることにこだわる必要はない、という意味です。

方谷は、備中松山藩の財政を任せられ、当時あつた銀行への莫大な負債をわずか七年で返済し、加えて藩の財政規模の二倍に相当する財を蓄えたと言われています。その際に方谷が取った手法は、徹底した情報公開でした。「銀行に藩の実収入を隠して、信用を失うまいとするのは小信を守るやり方。赤字を公表することは藩の信用を失うことにもなりかねないが、やがて負債返済が不可能な時が訪れる。隠すことは問題の先送りにしかならない。大なる信義を守るためには、小なる信義を守つてはおれませぬ。」方谷は藩主をこう説得して藩の財政状況を立て直しました。これは方谷の信条である「誠意中心主義」の発現ともいわれています。

皆さんがこれから出ていく社会は人間関係で成り立っています。ネット社会の出現は人と人とを繋がりやすくしましたが、一方で表面的に同じ意見の人だけが集まつて、異なる意見は聞かなくなり、かえつて人間的なつながりが分断され、希薄化したという指摘もあります。うわべだけの小さな信用を守ることに固執して、自らの本質を隠し、飾り立てた外面を本音と偽ることで、大きな信用を失つてしまうことにもなりかねません。誠意をもつて人に接することが大切です。

嘘偽りない自分を飾り立てることなくさらけ出すこと、それが大きな信頼の上に立つ、本物の人間関係構築の第一歩であると思います。

さて、保護者の皆様、最後になりましたが、皆様に一言、申し上げます。

本日はお子様の御卒業、誠におめでとうございます。新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点からこのような形式の式典になりましたこと、御理解いただければ幸いです。

皆様からお預かりいたしましたお子様方を、本日、無事にお手元にお返しいたします。

お子様方の御卒業に際し、改めてお祝いを申しあげますとともに、皆様から頂戴致しましたこれまでの御支援と御協力に、心より感謝申し上げます。

皆様方の御支援に支えられながら、私達教職員は、お子様とともに成長することができました。保護者の皆様、改めまして三年間本当にありがとうございました。

結びに、卒業生の皆さんの限りない未来への飛躍を期待して、卒業への饒の言葉といたします。

卒業生の皆さん、皆さんは本日卒業いたしますが、ここはあなた方の帰るべき港です。疲れたときはいつでも立ち寄ってください。

お待ちしております。

令和二年三月十二日

埼玉県立南校高等学校長 山本 健敬